

きずな

学校教育目標「確かな学力と豊かな人間性を備え、
力強く生き抜く生徒の育成」

「いい加減?」「良い加減?」

水曜日の夜に放送されている「ほんまでっかTV」ご覧になったことありますか?いろいろな専門家がそれぞれの立場から「本当?」と思うようなことを話される番組です。それに出演されている池田先生という方(下写真の方)が、講演会で次のような話をされています。

「いい加減」というのは悪い言葉だけど、「良い加減」ですから、本当は良いんです。(中略)そのようなことを考えながら子どもを育てれば、あまり努力をしなくても子どもはみんな立派に育つと思います。

親は、子どもを「しっかり育てなくては」と努力します。でもそれが上手くいかないと感じたときに、すごく悩んでしまいます。子どもも同様です。自分で「こうなりたい」と頑張っているときに、思った通りの成果が出ないと悩んでしまいます。そんなときは、「良い加減」になっても良いのではないのでしょうか。肩の力を抜いて、「きっと何とかなる」と考えることで、悩みを乗り越えて、次のステップに進むことができると思います。

すべきことをしない
「いい加減」は困りますが、悩みを乗り越える
「良い加減」の考え方は、必要だと思いますよ。



講演はオンラインで行われた

「清掃の時間」の意味って?

日本の学校には「清掃」の時間があります。しかも教育の一環としてです。ところが、海外では校舎の清掃は生徒がするものではなく、専門の業者がするものとしていることが多いようです。

なぜ、日本の学校には「清掃」があるのでしょうか。

株式会社そうじの力 代表取締役 小早祥一郎さんは、次のように言われています。

ゴミを捨てることは、自分に「小さな問題を解決できる力」があると思える行動です。その力こそが「そうじの力」だと私は考えています。つまり「そうじの力」は、端的に言うと「問題解決力」なんですね。自分が捨てたわけでも、自分が悪いわけでもない。「拾いなさい」と言われているわけでもありませんが、気付いて「自分がやれば良いんだな」と思える力なのです。

目の前の問題に気が付き、それを解決するための行動ができる力を身に付ける時間、それが清掃の時間なのです。



そう考えると、とても大切な時間ですね。

HP をご覧ください

学校の様子を中学校のホームページに掲載しています。下のバーコードを、スマホのカメラで読み取ることにつながります。ぜひ、お試ください。

時には、動画もアップしていきます。

